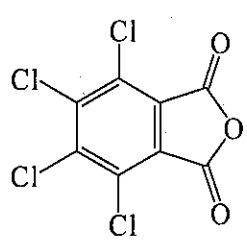
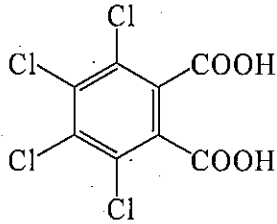


整理番号 K-1476 (NEDO 163, 3-1423)	分解度試験	分解度試験	分解度試験
四塩化無水フタル酸	契約 13年 11月 1日	契約 年 月 日	契約 年 月 日
[別名: 3, 4, 5, 6-テトラクロロフタル酸無水物] (117-08-8)	試験期間 13.11. 9~14. 1.22	試験期間 . . . ~ . . .	試験期間 . . . ~ . . .
	試験装置 (標) ・ 揮	試験装置 標 ・ 揮	試験装置 標 ・ 揮
構造式 (示性式) ・ 物理化学的性状  分子式 C ₈ Cl ₄ O ₃ 分子量 285.90	試験濃度	試験濃度	試験濃度
	被験物質 100 mg/L	被験物質 mg/L	被験物質 mg/L
	汚泥 30 mg/L	汚泥 mg/L	汚泥 mg/L
	本試験期間 4 週間	本試験期間 週間	本試験期間 週間
	試験結果 間接 直接	BOD 0, 0, 0 (0)% TOC 0, 0, 1 (0)% HPLC 100, 100, 100(100)%	試験結果 間接 直接
純度*1 100%	外観 白色粉末	審査部会 第 1 2 回 14年 3月 22日開催	審査部会 第 回 年 月 日開催
不純物 (物質名, 含有率)	溶解度 (対水, その他) 対水 変化のため測定不可 対クロロホルム 1g/L 以上 対メタノール 1g/L 以上	判定 難分解性	判定
融点*2 256.3°C	1-オクタノール/水分配係数 log Kow = 4.65*5	備考 1. 回収率 (水+被験物質)系 97.2% (汚泥+被験物質)系 94.9% 2. 実施機関 ・財団法人 化学物質評価研究機構 3. 特記事項 ・被験物質は試験液中で全て変化し、3, 4, 5, 6-テトラクロロフタル酸(3-0062)を生成し、残留した。 ・後続試験は 3, 4, 5, 6-テトラクロロフタル酸で実施した。	備考
沸点*3 371°C			
密度 測定不可			
LD50*4 >15,800 mg/kg(oral, rat) >5 g/kg(skin, rabbit)	安定性 水中で加水分解する。		
IRチャートの有無 (有) ・ 無			
用途*6 色素添加剤			
生産量*6 (16年) 製造及び輸入 10~100 t			
試料 購入先 和光純薬工業			
経済産業公報発表年月日 年 月 日			

*1 HPLCによる。 *2 和光純薬工業添付資料による。 *3 The Sigma-Aldrich Library of Regulatory and Safety Dataによる。

*4 Sigma-Aldrich Material Safety Data Sheets(11/1998-1/1999)による。 *5 Kowwin v 1.67による計算値。 *6 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査による。

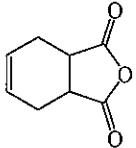
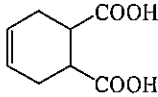
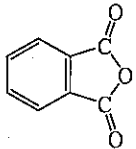
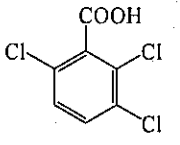
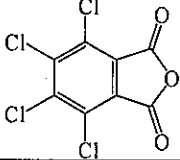
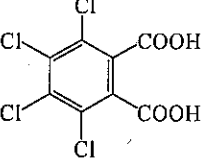
濃縮度試験					濃縮度試験					毒性試験	
年 月 日					年 月 日					年月日	
試験期間					試験期間					依	
試験装置 標・揮		LC50 値 mg/L(hr)魚種()			試験装置 標・揮		LC50 値 mg/L(hr)魚種()			類	
水槽設定濃度 ()					水槽設定濃度 ()					経過	
被験物質		分散剤			被験物質		分散剤				
第1濃度区					第1濃度区						
第2濃度区					第2濃度区						
第3濃度区					第3濃度区						
濃縮倍率		開始前 脂質含有率 % 魚種()			濃縮倍率		開始前 脂質含有率 % 魚種()				
		終了後					終了後				
		日後					日後				
		日後					日後				
第1	水槽濃度 ()					第1	水槽濃度 ()				
	倍率						倍率				
第2	水槽濃度 ()					第2	水槽濃度 ()				
	倍率						倍率				
第3	水槽濃度 ()					第3	水槽濃度 ()				
	倍率						倍率				
審査部会 第 66 回 19年 7月 27日 開催					審査部会 第 回 年 月 日 開催						
判定結果					判定結果						
備考					備考						
変化物テトラクロロフタル酸から類推											

整理番号 K-1476変化物 (NEDO 163, 3-0062)		分解度試験		分解度試験		分解度試験	
テトラクロロフタル酸 (632-58-6)		契約 年 月 日		契約 年 月 日		契約 年 月 日	
試験期間 . . . ~ . . .		試験期間 . . . ~ . . .		試験期間 . . . ~ . . .		試験期間 . . . ~ . . .	
試験装置 標・揮		試験装置 標・揮		試験装置 標・揮		試験装置 標・揮	
構造式 (示性式) ・物理化学的性状		試験濃度		試験濃度		試験濃度	
		被験物質 mg/L		被験物質 mg/L		被験物質 mg/L	
		汚泥 mg/L		汚泥 mg/L		汚泥 mg/L	
		本試験期間 週間		本試験期間 週間		本試験期間 週間	
分子式 C ₈ H ₂ Cl ₄ O ₄ 分子量 303.91		試験結果	間接	試験結果	間接	試験結果	間接
			直接		直接		直接
純度*1 98.1% (中和滴定)	外観 白色結晶性粉末	審査部会 第 回 年 月 日開催	判定 備考	審査部会 第 回 年 月 日開催	判定 備考	審査部会 第 回 年 月 日開催	判定 備考
不純物*1 (物質名, 含有率) 水分 2.9%	溶解度 (対水, その他) 対水 3600mg/L (20°C)						
融点*2 98°C	1-オクタノール/水分配係数 log Pow = 3.2 (HPLC法)*3	審査部会 第 回 年 月 日開催	判定 備考	審査部会 第 回 年 月 日開催	判定 備考	審査部会 第 回 年 月 日開催	判定 備考
沸点 測定不可 (270°C付近から 淡茶色に変化)							
密度 1.760g/cm ³ (20°C)							
LD50	解離定数 (20°C) pKa1 = 1.95 pKa2 = 2.99 (滴定法)	審査部会 第 回 年 月 日開催	判定 備考	審査部会 第 回 年 月 日開催	判定 備考	審査部会 第 回 年 月 日開催	判定 備考
IRチャートの有無 (有)・無							
用途*4 色素添加剤							
生産量*4 (16年) 製造及び輸入 100~1,000 t 未満		審査部会 第 回 年 月 日開催	判定 備考	審査部会 第 回 年 月 日開催	判定 備考	審査部会 第 回 年 月 日開催	判定 備考
試料 購入先							
経済産業省公報発表年月日	年 月 日	審査部会 第 回 年 月 日開催	判定 備考	審査部会 第 回 年 月 日開催	判定 備考	審査部会 第 回 年 月 日開催	判定 備考

*1 東京化成工業添付資料による。 *2 <http://physchem.ox.ac.uk/MSDS/TE/tetrachlorophthalic acid.html> による。
*3 溶離液：メタノール/pH1.0緩衝液(7/3 V/V) *4 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査による。

濃縮度試験					事業対象年度 平成18年度					濃縮度試験					毒性試験				
試験期間					19. 2. 9 ~ 19. 3. 6					試験期間					年月日				
試験装置 標・揮		LC50値			mg/L(hr)魚種()			試験装置 標・揮		LC50値			mg/L(hr)魚種()			依 頼			
水槽設定濃度 ()					水槽設定濃度 ()					経過									
被験物質		分散剤			被験物質		分散剤												
第1濃度区					第1濃度区														
第2濃度区					第2濃度区														
第3濃度区					第3濃度区														
濃縮倍率		脂質含有率			開始前		% 魚種()			濃縮倍率		脂質含有率			開始前		% 魚種()		
		終了後			%							終了後			%				
		日後			日後		日後			日後		日後			日後		日後		
第1	水槽濃度 ()					第1		水槽濃度 ()											
	倍率					第1		倍率											
第2	水槽濃度 ()					第2		水槽濃度 ()											
	倍率					第2		倍率											
第3	水槽濃度 ()					第3		水槽濃度 ()											
	倍率					第3		倍率											
審査部会 第66回 19年 7月 27日 開催					審査部会 第 回 年 月 日 開催														
判定結果					判定結果														
備考					備考														
分配係数から類推 [実施機関] 財団法人 化学物質評価研究機構																			

K-1476 変化物の類似物質表

化合物名 (CAS 番号)	構造式	官報公示 整理番号 (K-番号)	分解度 (%)	分解 判定 (年)	分配係数 (log Pow)	LC50 mg/L (ヒメダカ)	濃縮倍率	濃縮 判定 (年)
cis-1, 2, 3, 6-テトラ ヒドロフタル酸無水物 (935-79-5)		3-3435 (K-947)	標準(4W) 1991年実施 BOD 0, 0, 0 (0) TOC 0, 0, 0 (0) G C 100, 100, 100 (100)	難分解性 (1991)	/	/	4-シクロヘキセン-1, 2- ジカルボン酸から類推	高濃縮性 ではない (1991)
4-シクロヘキセン- 1, 2-ジカルボン酸 (88-98-2)		3-3316 (K-263)	標準(2W) 1976年実施 BOD 3, 3 (3) TOC 0, 0 (0) G C 0, 2 (1) 逆転(4W) 1978年実施 BOD 0, 0 (0) TOC 6, 0 (3) G C 15, 16 (15) HPLC 9, 18 (14)	難分解性 (1978)	/	600 (48hr)	1979年実施 1区(2.0mg/L) : <0.2 2区(0.2mg/L) : <2 脂質含有率 -	高濃縮性 ではない (1979)
無水フタル酸 (85-44-9)		3-1344 (K-126)	標準(2W) 1975年実施 BOD 87, 83 (85) TOC 91, 96 (93) U V(280nm) 96, 97 (96)	良分解性 (1978)	/	/	/	/
2, 3, 6-トリクロロ安息 香酸 (50-31-7)		3-2987 (K-563)	標準(4W) 1987年実施 BOD 0, 2, 0 (1) TOC 0, 0, 0 (0) GC-MS 0, 1, 0 (0)	難分解性 (1987)	0.70~0.97 (プラスコ振とう法)	417 (48hr)	1988年実施 1区(293 µg/L) : <0.4 2区(29.3µg/L) : <3.5 脂質含有率 5.1%	高濃縮性 ではない (1988)
3, 4, 5, 6-テトラクロロ フタル酸無水物 (117-08-8)		3-1423 (K-1476)	標準(4W) 2002年実施 BOD 0, 0, 0 (0) TOC 0, 0, 1 (0) HPLC 100, 100, 100 (100) [テトラクロロフタル酸を生成 し、残留した。]	難分解性 (2002)	4.65*1	/	テトラクロロフタル酸から 類推	
テトラクロロフタル 酸 (2136-79-0)		3-0062 (K-1476 変化物)	/	/	2007年実施 3.2 (HPLC法)*2	/	分配係数から類推	

*1 Kowwin v 1.67 による計算値。

*2 溶離液 : メタノール/pH1.0 緩衝液(7/3 V/V)

整理番号 K-1587 (NEDO 114, 2-2795)		分解度試験		備考 3. 特記事項 被験物質は試験液中で消失し、臭化物イオンが 20~2%、アンモニア態窒素が 50~53% 生成し、残留した。 変化物 (LC-MS による推定) として ①2-ブロモプロパンジアミド、②2,2-ジブロモプロパンジアミド、 ③2-ブロモ-2-シアノアセトアミド、④2,2-ジブロモアセトアミドが生成し、残留した。 ① $\begin{array}{c} \text{H} \\ \\ \text{H}_2\text{NOC}-\text{C}-\text{CONH}_2 \\ \\ \text{Br} \end{array}$ ② $\begin{array}{c} \text{Br} \\ \\ \text{H}_2\text{NOC}-\text{C}-\text{CONH}_2 \\ \\ \text{Br} \end{array}$ ③ $\begin{array}{c} \text{H} \\ \\ \text{NC}-\text{C}-\text{CONH}_2 \\ \\ \text{Br} \end{array}$ ④ $\begin{array}{c} \text{Br} \\ \\ \text{H}-\text{C}-\text{CONH}_2 \\ \\ \text{Br} \end{array}$ ①~④は試薬が入手できなかった。また、HPLC クロマトグラム上の保持時間から、①~④は被験物質より極性が高い。後続試験は被験物質で実施した。 HPLC クロマトグラムの保持時間 (分) 被験物質 4.2 変化物① 1.8 変化物② 2.2 変化物③ 2.3 変化物④ 2.6
2-シアノ-2,2-ジブロモアセトアミド (10222-01-2)		契約	13年 3月 28日	
		試験期間	13. 9.28~13.12.18	
		試験装置	①・揮	
構造式 (示性式) ・物理化学的性状 $\begin{array}{c} \text{Br} \\ \\ \text{N}\equiv\text{C}-\text{C}-\text{C}-\text{NH}_2 \\ \quad \\ \text{Br} \quad \text{O} \end{array}$ 分子式 C ₃ H ₂ Br ₂ N ₂ O 分子量 241.87		試験濃度		
		被験物質	100 mg/L	
		汚泥	30 mg/L	
		本試験期間	4 週間	
		試験結果	間接	
直接	TOC		20, 14, 10 (15) %	
	HPLC	100, 100, 100 (100) %		
純度*1 98.0%	外観*1 白色粉末	審査部会	第 11 回 14年 1月 29日開催	
不純物*1 (物質名, 含有率) 残り 0.2%については不明	溶解度 (対水, その他) 対水 変化のため測定不可 対アセトニトリル 100 g/L 以上	判定	難分解性	
融点*1 124.0~125.6℃	1-オクタノール/水分配係数 log Pow = 0.5 (HPLC法)*2	備考 1. 回収率* (水 + 被験物質) 系 100% (汚泥 + 被験物質) 系 100% ※試験液を直接分析機器に導入。 2. 実施機関 ・財団法人 化学物質評価研究機構		
沸点 測定不可(160℃付近で黄色に変色)				
比重 2.377 g/cm ³ (25℃)				
LD ₅₀ *1 235 mg/kg (経口, ラット) >2000 mg/kg (経皮, うさぎ)	解離定数 試験溶液中では非解離の状態 で存在すると推定される。			
IRチャートの有無 (有)・無				
用途				
生産量*3 (16年) 製造及び輸入 100~1,000 t 未満				
試料				
経済産業公報発表年月日		年 月 日		

*1 提供先添付資料による。

*2 溶解液:メタノール/りん酸緩衝液(pH7.0)(40/60 V/V)

*3 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査による。

濃縮度試験					濃縮度試験					毒性試験			
事業対象年度 平成18年度										年月日			
試験期間 18.11.13 ~ 18.11.28					試験期間 ~					依 頼			
試験装置 標・揮 LC50値 mg/L(hr)魚種()					試験装置 標・揮 LC50値 mg/L(hr)魚種()								
水槽設定濃度 ()					水槽設定濃度 ()					経 過			
被験物質		分散剤			被験物質		分散剤						
第1濃度区					第1濃度区								
第2濃度区					第2濃度区								
第3濃度区					第3濃度区								
濃縮倍率 脂質含有率 開始前 終了後 % 魚種()					濃縮倍率 脂質含有率 開始前 終了後 % 魚種()								
		日後	日後	日後	日後	日後			日後	日後	日後	日後	日後
第1	水槽濃度()						第1	水槽濃度()					
	倍率							第2	水槽濃度()				
第2	水槽濃度()						第2		水槽濃度()				
	倍率							第3	水槽濃度()				
第3	水槽濃度()						第3		水槽濃度()				
	倍率												
審査部会 第66回 19年 7月 27日 開催					審査部会 第 回 年 月 日 開催								
判定結果					判定結果								
備考					備考								
分配係数から類推													
[実施機関] 財団法人 化学物質評価研究機構													

K-1587の類似物質表

化合物名 (CAS番号)	構造式	官報公示 整理番号 (K-番号)	分解度 (%)	分解 判定 (年)	分配係数 (log Pow)	LC50 mg/L (ヒメダカ)	濃縮倍率	濃縮 判定 (年)
ホルムアミド (75-12-7)	HCNH_2	2-0681 (K-165)	標準(3W) 1976年実施 BOD 16, 29 (23) TOC 82, 78 (80) GC 100, 100 (100)	良分解性 (1976)	/	/	/	/
アセトアミド (60-35-5)	$\text{CH}_3\text{C}-\text{NH}_2$	2-0724 (K-1540)	標準(2W) 2001年実施 BOD(NH ₃) 67, 69, 70 (69) TOC 100, 100, 100 (100) HPLC 100, 100, 100 (100)	良分解性 (2001)	/	/	/	/
アクリルアミド (79-06-1)	$\text{H}_2\text{C}=\text{CH}-\text{C}-\text{NH}_2$	2-1014 (K-33)	標準(4W) 1998年実施 BOD 84, 71, 55 (70) TOC 89, 86, 74 (83) HPLC 100, 86, 75 (87) 逆転(2W) 1998年実施 (参考データ) TOC 98, 100, 100 (99) HPLC 100, 100, 100 (100)	良分解性 (1998)	/	/	/	/
2-シアノ-2, 2-ジブロモアセト アミド (10222-01-2)	$\text{N}\equiv\text{C}-\text{C}(\text{Br})_2-\text{C}-\text{NH}_2$	2-2795 (K-1587)	標準(4W) 2001年実施 BOD 0, 0, 0 (0) TOC 20, 14, 10 (15) HPLC 100, 100, 100 (100)	難分解性 (2002)	2006年実施 0.5 (HPLC法)	/	分配係数から類推	/

整理番号 K-1628 (NEDO 361, 2-0390)	分解度試験	分解度試験	分解度試験
ビス(2-ジメチルアミノエチル)エーテル (3033-62-3)	事業対象年度 平成18年度	契約 年 月 日	契約 年 月 日
	試験期間 18. 7.24~18.11.13	試験期間 . . . ~ . . .	試験期間 . . . ~ . . .
	試験装置 (標) ・ 揮	試験装置 標 ・ 揮	試験装置 標 ・ 揮
構造式 (示性式) ・ 物理化学的性状 $\begin{array}{c} \text{CH}_2\text{CH}_2\text{N}(\text{CH}_3)_2 \\ \\ \text{O} \\ \\ \text{CH}_2\text{CH}_2\text{N}(\text{CH}_3)_2 \end{array}$ 分子式 $\text{C}_8\text{H}_{20}\text{N}_2\text{O}$ 分子量 160.26	試験濃度	試験濃度	試験濃度
	被験物質 100 mg/L	被験物質 mg/L	被験物質 mg/L
	汚泥 30 mg/L	汚泥 mg/L	汚泥 mg/L
	本試験期間 4 週間	本試験期間 週間	本試験期間 週間
	試験結果 間接 BOD 0, 0, 0 (0)% 直接 TOC 2, 3, 4 (3)% LC-MS 6, 7, 0 (4)%	試験結果 間接 直接	試験結果 間接 直接
純度 ①99.5%(GC)*1 ②98.6%(GC)*2	外観 無色透明液体	審査部会 第66回 19年 7月27日開催	審査部会 第 回 年 月 日開催
不純物 (物質名, 含有率) ①残り0.5%は不明*1 ②残り1.4%は不明*2	溶解度 (対水, その他) 対水 100g/L以上(25°C) (フラスコ法)	判定	判定
融点 -70.5°C	1-オクタノール/水分配係数 log Pow = 1.1 (HPLC法)*4	備考 1. 回収率* (水+被験物質)系 100% (汚泥+被験物質)系 100% ※試験液を直接分析機器に導入。 2. 実施機関 ・財団法人 化学物質評価研究機構 3. 特記事項 ・開始時に pH 調整を行った。	備考
沸点*3 189°C			
密度*3 0.841g/cm ³	解離定数*5 pKa1 = 7.6 pKa2 = 10.1		
LD50*3 1,070mg/kg(oral, rat)			
IRチャートの有無 (有) ・ 無			
用途			
生産量 (年)			
試料 購入先 ①Lancaster Synthesis ②Fluorochem			
経済産業公報発表年月日 年 月 日			

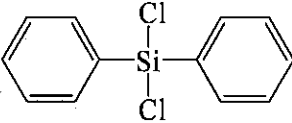
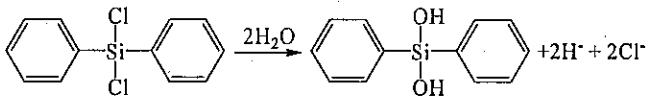
*1 Lancaster Synthesis 添付資料による。 *2 Fluorochem 添付資料による。 *3 Sigma-Aldrich Material Safety Data Sheets (Version 1.1)による。
*4 溶離液：メタノール/りん酸緩衝液 (pH11.0) (1/1 V/V) *5 http://www.huntsman.com/performance-products/Media/Amine_Apps_&Properties_Dataによる。
①分解度試験及び物理化学性状試験 ②分配係数試験

濃縮度試験						濃縮度試験						毒性試験			
事業対象年度 平成18年度												年月日			
試験期間 18.12.1 ~ 18.12.13						試験期間 ~						依頼	経過		
試験装置 標・揮		LC50値 mg/L(hr)魚種()				試験装置 標・揮		LC50値 mg/L(hr)魚種()							
水槽設定濃度 ()						水槽設定濃度 ()									
被験物質		分散剤				被験物質		分散剤							
第1濃度区						第1濃度区									
第2濃度区						第2濃度区									
第3濃度区						第3濃度区									
濃縮倍率		脂質含有率		開始前 終了後		% 魚種()		濃縮倍率		脂質含有率		開始前 終了後		% 魚種()	
		日後	日後	日後	日後	日後			日後	日後	日後	日後	日後		
第1	水槽濃度 ()						第1	水槽濃度 ()							
	倍率							倍率							
第2	水槽濃度 ()						第2	水槽濃度 ()							
	倍率							倍率							
第3	水槽濃度 ()						第3	水槽濃度 ()							
	倍率							倍率							
審査部会 第66回 19年 7月 27日 開催						審査部会 第 回 年 月 日 開催									
判定結果						判定結果									
備考						備考									
分配係数から類推															
[実施機関] 財団法人 化学物質評価研究機構															

K-1628の類似物質表

化合物名 (CAS番号)	構造式	官報公示 整理番号 (K-番号)	分解度 (%)	分解 判定 (年)	分配係数 (log Pow)	LC50 mg/L (ヒメダカ)	濃縮倍率	濃縮 判定 (年)
ジメチルエーテル (115-10-6)	<chem>COC</chem>	2-0360 (K-909)	標準(4W) 1990年実施 BOD 0, 1, 0 (0) TOC 6, 8, 10 (8) G C 5, 6, 9 (7)	難分解性 (1990)	1991年実施 0.20 (フラスコ振とう法)	/	分配係数から類推	高濃縮性 ではない (1991)
ジエチルエーテル (60-29-7)	<chem>CCOC</chem>	2-0361 (K-114)	標準(4W) 1984年実施 TOC 5, 0 (2) G C 13, 0 (6)	難分解性 (1984)	/	>1g/L (48hr)	1985年実施 1区(500µg/L): 0.9~1.4 2区(50µg/L): <1.7~9.1 脂質含有率 4.8%	高濃縮性 ではない (1985)
イソプロピルエーテル (108-20-3)	<chem>CC(C)OC</chem>	2-0362 (K-1090)	標準(4W) 1994年実施 BOD 0, 0, 0 (0) G C 8, 8, 8 (8)	難分解性 (1994)	1997年実施 1.64 (フラスコ振とう法)	/	分配係数から類推	高濃縮性 ではない (1997)
n-ブチルエーテル (142-96-1)	<chem>CCCCOC</chem>	2-0363 (K-453)	標準(4W) 1985年実施 BOD 4, 3, 3 (3) G C 0, 0, 0 (0)	難分解性 (1985)	1986年実施 3.35 (フラスコ振とう法) 2004年実施 3.6 (HPLC法)	30.7 (48hr)	1986年実施 1区(200µg/L): 47~83 2区(20µg/L): 30~114 脂質含有率 4.6%	高濃縮性 ではない (1986)
ジイソペンチルエーテル (544-01-4)	<chem>CC(C)CCOC</chem>	2-0365 (K-454)	標準(2W) 1980年実施 BOD 14, 10, 0 (8) G C 1, 3, 2 (2)	難分解性 (1980)	1982年実施 4.25 (フラスコ振とう法) 2004年実施 4.8 (HPLC法)	4.7 (48hr)	1982年実施 1区(60µg/L): 117~313 2区(6µg/L): 84~260 脂質含有率 5.7%	高濃縮性 ではない (1983)
ビス(2-ジメチルア ミノエチル)エーテル (3033-62-3)	<chem>CN(C)CCOCN(C)C</chem>	2-0390 (K-1628)	標準(4W) 2006年実施 BOD 0, 0, 0 (0) TOC 2, 3, 4 (3) LC-MS 6, 7, 0 (4)		2006年実施 1.1 (HPLC法)*	/	分配係数から類推	

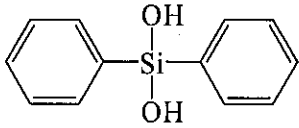
* 溶離液: メタノール/りん酸緩衝液(pH11.0) (1/1 V/V)

整理番号 K-1640 (NEDO207,3-2634)	分解度試験	分解度試験	分解度試験
ジクロロジフェニルシラン (80-10-4)	事業対象年度 平成16年度	契約 年 月 日	契約 年 月 日
	試験期間 16.11.4~16.12.28	試験期間 . . . ~ . . .	試験期間 . . . ~ . . .
	試験装置 (標)・揮	試験装置 標・揮	試験装置 標・揮
構造式 (示性式)・物理化学的性状  分子式 C ₁₂ H ₁₀ Cl ₂ Si 分子量 253.20	試験濃度	試験濃度	試験濃度
	被験物質 100 mg/L	被験物質 mg/L	被験物質 mg/L
	汚泥 30 mg/L	汚泥 mg/L	汚泥 mg/L
	本試験期間 4 週間	本試験期間 週間	本試験期間 週間
	試験結果	試験結果	試験結果
間接	BOD 0, -1, 0 (0)%	間接	
直接	G C 100, 100, 100 (100)%	直接	
純度*1 100.0%	外観 無色澄明液体		
不純物 (物質名, 含有率)	溶解度 (対水, その他) 対水 水中変化のため測定不可	審査部会 第47回 17年 9月30日開催	審査部会 第 回 年 月 日開催
融点*2 -22°C		判定 難分解性	判定
沸点*3 304~305°C	1-オクタノール/水分配係数 log Kow = 5.06*4	備考 1. 回収率 (ジフェニルシランジオール) (水+被験物質)系 101% (汚泥+被験物質)系 104% ・分解度の平均値が負の値に算出されたため、0と表記した。 ・後続試験はジフェニルシランジオールで実施した。 2. 実施機関 ・株式会社 日本医学臨床検査研究所 3. 特記事項 ・被験物質は試験液中で全て加水分解し、ジフェニルシランジオール (3-2638, logKow=2.03*4) を99~107%生成し、残留した。 	
比重*3 d ₄ ²⁵ 1.218			
LD50	安定性		
IRチャートの有無 (有)・無			
用途			
生産量 (年)			
試料 購入先 和光純薬工業			
経済産業公報発表年月日 年 月 日			

*1 和光純薬工業添付資料による。 *2 Hazardous Substances Data Bank (U.S. National Library of Medicine) (2002/5)による。

*3 有機化合物辞典 (講談社)による。 *4 Kowwin v 1.67 による計算値。

濃縮度試験						濃縮度試験						毒性試験			
試験期間 ~						試験期間 ~						依頼	年月日		
試験装置 標・揮		LC50値 mg/L(hr)魚種()				試験装置 標・揮		LC50値 mg/L(hr)魚種()							
水槽設定濃度 ()						水槽設定濃度 ()						経過			
被験物質		分散剤				被験物質		分散剤							
第1濃度区						第1濃度区									
第2濃度区						第2濃度区									
第3濃度区						第3濃度区									
濃縮倍率		脂質含有率		開始前 終了後		濃縮倍率		脂質含有率		開始前 終了後				% 魚種()	
		日後		日後		日後		日後		日後				日後	
第1	水槽濃度 ()						第1	水槽濃度 ()							
	倍率							倍率							
第2	水槽濃度 ()						第2	水槽濃度 ()							
	倍率							倍率							
第3	水槽濃度 ()						第3	水槽濃度 ()							
	倍率							倍率							
審査部会 第66回 19年 7月 27日 開催						審査部会 第 回 年 月 日 開催									
判定結果						判定結果									
備考						備考									
ジフェニルシランジオールの分配係数から類推															

整理番号 K-1640変化物 (NEDO207変化物, 3-2638)		分解度試験		分解度試験		分解度試験		
ジフェニルシランジオール (947-42-2)		契約 年 月 日		契約 年 月 日		契約 年 月 日		
		試験期間 . . . ~ . . .		試験期間 . . . ~ . . .		試験期間 . . . ~ . . .		
		試験装置 標・揮		試験装置 標・揮		試験装置 標・揮		
構造式 (示性式) ・物理化学的性状  分子式 C ₁₂ H ₁₂ O ₂ Si 分子量 216.31		試験濃度		試験濃度		試験濃度		
		被験物質 mg/L		被験物質 mg/L		被験物質 mg/L		
		汚泥 mg/L		汚泥 mg/L		汚泥 mg/L		
		本試験期間 週間		本試験期間 週間		本試験期間 週間		
		試験結果	間接		間接		間接	
			直接		直接		直接	
純度*1 99.9% (GC)	外観 白色粉末	審査部会 第 回 年 月 日開催		審査部会 第 回 年 月 日開催		審査部会 第 回 年 月 日開催		
不純物*1 (物質名, 含有率) 残り 0.1%は不明	溶解度 (対水, その他) 対水 327 mg/L (25°C)	判定		判定		判定		
融点*2 140°C	1-オクタノール/水分係数 log Pow = 2.0 (HPLC法) *3	備考		備考		備考		
沸点 測定不可								
比重*2 0.99								
LD50	安定性							
IRチャートの有無 (有)・無								
用途								
生産量 (年)								
試料 購入先 東京化成工業 試薬特級								
経済産業省公報発表年月日	年 月 日							

*1 東京化成工業添付資料による。

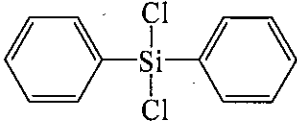
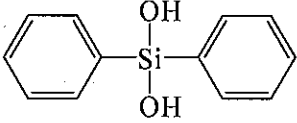
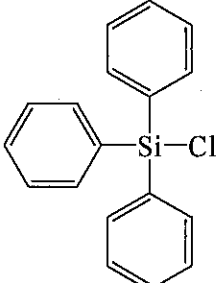
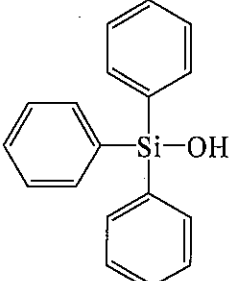
*2 <http://physchem.ox.ac.uk/MSDS/DI/diphenylsilanediol.html> による。

*3 溶離液: メタノール/精製水 (55/45 V/V)

濃縮度試験 事業対象年度 平成18年度					濃縮度試験契約 年 月 日						
試験期間 18. 8. 15 ~ 18. 8. 31					試験期間 ~						
試験装置 標・揮 LC50値 mg/L(hr)魚種()					試験装置 標・揮 LC50値 mg/L(hr)魚種()						
水槽設定濃度 ()					水槽設定濃度 ()						
被験物質		分散剤			被験物質		分散剤				
第1濃度区					第1濃度区						
第2濃度区					第2濃度区						
第3濃度区					第3濃度区						
濃縮倍率 脂質含有率 開始前 終了後 % 魚種()					濃縮倍率 脂質含有率 開始前 終了後 % 魚種()						
日後 日後 日後 日後 日後					日後 日後 日後 日後 日後						
第1	水槽濃度()					第1	水槽濃度()				
	倍率						倍率				
第2	水槽濃度()					第2	水槽濃度()				
	倍率						倍率				
第3	水槽濃度()					第3	水槽濃度()				
	倍率						倍率				
審査部会 第66回 19年 7月 27日 開催					審査部会 第 回 年 月 日 開催						
判定結果					判定結果						
備考 分配係数から類推					備考						
[実施機関] 財団法人 化学物質評価研究機構											

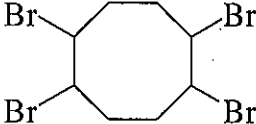
毒性試験	
依頼	年月日
	経過

K-1640 変化物の類似物質表

化合物名 (CAS 番号)	構造式	官報公示 整理番号 (K-番号)	分解度 (%)	分解 判定 (年)	分配係数 (log Pow)	LC50 mg/L (ヒメダカ)	濃縮倍率	濃縮 判定 (年)
ジクロロジフェニル シラン (80-10-4)		3-2634 (K-1640)	標準(4W) 2004年実施 BOD 0, -1, 0 (0)*1 G C 100, 100, 100 (100) 〔ジフェニルシランジオールを〕 生成し、残留した。	難分解性 (2005)	5.06*2	/	ジフェニルシランジオール から類推	
ジフェニルシランジ オール (947-42-2)		3-2638 (K-1640 変化物)	/	/	2006年実施 2.0 (HPLC法)	/	分配係数から類推	
トリフェニルクロロ シラン (76-86-8)		3-2634 (K-818)	標準(4W) 1986年実施 BOD 0, 0, 0 (0) G C 100, 100, 100 (100) 〔トリフェニルシラノールを生成〕 し、残留した。	難分解性 (1986)	/	/	/	/
トリフェニルシラ ノール (791-31-1)		3-2638 (K-818 変化物)	/	/	1986年実施 4.96 (フラスコ振とう法)	>250 (48hr)	1987年実施 1区(500µg/L): 297~667 2区(50µg/L): 491~1050 脂質含有率 4.7%	高濃縮性 ではない (1987)

*1 分解度の平均値が負の値に算出されたため、0と表記した。

*2 Kowwin v 1.67 による計算値。

整理番号 K-1715 (NEDO 287, 3-2254)		分解度試験		分解度試験		分解度試験		
1, 2, 5, 6-テトラブロモシクロオクタン (3194-57-8)		事業対象年度 平成16年度		契約 年 月 日		契約 年 月 日		
		試験期間 16.11.25~17.2.4		試験期間 . . . ~ . . .		試験期間 . . . ~ . . .		
		試験装置 (標) ・ 揮		試験装置 標 ・ 揮		試験装置 標 ・ 揮		
構造式 (示性式) ・ 物理化学的性状  分子式 C ₈ H ₁₂ Br ₄ 分子量 427.80		試験濃度		試験濃度		試験濃度		
		被験物質 100 mg/L		被験物質 mg/L		被験物質 mg/L		
		汚泥 30 mg/L		汚泥 mg/L		汚泥 mg/L		
		本試験期間 4 週間		本試験期間 週間		本試験期間 週間		
		試験結果	間接	BOD -16, -2, -1 (0)%		間接		
直接	GC 1, 0, 1 (1)%		直接					
純度*1 98.3%	外観 白色粉末							
不純物 (物質名, 含有率) 残り 1.7%は不明	溶解度 (対水, その他) 対水 347 µg/L (25°C) (カラム溶出法) 酢酸エチル 10 g/L 以上	審査部会 第 47 回 17年 9月 30日開催		審査部会 第 回 年 月 日開催		審査部会 第 回 年 月 日開催		
融点*2 97~105°C	1-オクタノール/水分分配係数 log Kow = 5.24*3	判定 難分解性		判定		判定		
沸点 測定不可	安定性	備考		備考		備考		
比重*2 2.37		1. 回収率 (水 + 被験物質) 系 95.7% (汚泥 + 被験物質) 系 95.1%						
LD50		2. 実施機関 ・ 財団法人 化学物質評価研究機構						
IRチャートの有無 (有) ・ 無		3. 特記事項 ・ 分解度の平均値が負の値に算出されたため、0と表記した。						
用途*4 樹脂用添加剤 (発砲ポリスチレン用難燃剤)								
生産量 (年)								
試料								
経済産業公報発表年月日	年 月 日							

*1 GCによる。 *2 提供先添付資料による。 *3 Kowwin v 1.67による計算値。 *4 14705の化学商品(化学工業日报社)による。

濃縮度試験						事業対象年度 平成17年度						毒性試験					
試験期間						18.10.20 ~ 19.2.28						依 年 月 日					
試験装置		(標)・揮		LC50値 7.50 mg/L(96hr)魚種(ヒメダカ)						類		経過					
水槽設定濃度 (µg/L)																	
		被験物質		分散剤													
				HCO-40			2-メトキシエタノール										
第1濃度区		10		50			19000										
第2濃度区		1		5			19000										
脂質含有率						開始前 5.07%		終了後 5.09%		魚種(コイ)							
濃縮倍率						濃縮倍率								排泄試験(半減期)			
ピーク1						ピーク2								第1濃度区 2.6日 第2濃度区 4.3日			
		11日後		21日後		34日後		47日後		60日後							
第1	水槽濃度(µg/L)		9.74		9.23		9.95		10.1		8.47		第1				
	倍率		1700		2400		2800		4500		3700		水槽濃度(µg/L)				
		1500		2300		4500		4600		2700		第1		倍率			
		2300		3100		5000		5200		3800		第2		水槽濃度(µg/L)			
第2	水槽濃度(µg/L)		1.01		0.850		0.896		0.972		0.899		第2		水槽濃度(µg/L)		
	倍率		1900		1900		2300		2400		2600		第2		倍率		
		1900		1000		2200		2900		3100		第2		2300		1600	
		2500		2000		2300		2800		3000		第2		2300		1600	
		2300		1600		2500		3700		1900							
審査部会						第66回 19年 7月 27日 開催						排泄試験(半減期)					
判定結果												第1濃度区 2.6日 第2濃度区 3.9日					
備考						備考						排泄試験(半減期)					
[定常状態における濃縮倍率] 第1濃度区 3900倍 第2濃度区 2600倍						[定常状態における濃縮倍率] 第1濃度区 4700倍 第2濃度区 2800倍						第1濃度区 2.6日 第2濃度区 3.9日					
[回収率] 試験水 96.5%						[回収率] 試験水 92.7%											
[定量下限濃度] 試験水 第1濃度区 0.35 µg/L 第2濃度区 0.035 µg/L						[定量下限濃度] 試験水 第1濃度区 0.32 µg/L 第2濃度区 0.032 µg/L											
供試魚 93.1%						供試魚 84.8%											
供試魚 280 ng/g						供試魚 240 ng/g											
[実施機関] 財団法人 化学物質評価研究機構						[実施機関] 財団法人 化学物質評価研究機構											

*5 外皮重量が1.74gのときの算出可能な濃縮倍率。

K-1715の類似物質表

化合物名 (CAS番号)	構造式	官報公示 整理番号 (K-番号)	分解度 (%)	分解 判定 (年)	分配係数 (log Pow)	LC50 mg/L (ヒメダカ)	濃縮倍率	濃縮 判定 (年)
クロロペンタブロモ シクロヘキサン (87-84-3)		3-2251 (K-802)	標準(4W) 1986年実施 BOD 0, 0, 0 (0) G C 2, 0, 0 (1)	難分解性 (1986)	1986年実施 4.72 (フラスコ振とう法)	>50 (48hr)	1977年実施 ピーク A 1区(25 µg/L) : 102~844 2区(2.5µg/L) : 184~727 ピーク B 1区(25 µg/L) : 102~819 2区(2.5µg/L) : 197~644 ピーク C 1区(25 µg/L) : 76~534 2区(2.5µg/L) : 125~388 脂質含有率 4.7%	高濃縮性 ではない (1987)
1, 2, 5, 6-テトラ ブロモシクロオクタン (3194-57-8)		3-2254 (K-1715)	標準(4W) 2005年実施 BOD -16, 2, -1 (0)*1 G C 1, 0, 1 (1)	難分解性 (2005)	5.24*2	7.50 (96hr)	2007年実施 定常状態における濃縮倍率 ピーク 1 1区(10µg/L) : 3900 2区(1µg/L) : 2600 ピーク 2 1区(10µg/L) : 4700 2区(1µg/L) : 2800 脂質含有率 開始前 5.07% 終了後 5.09%	
1, 2, 5, 6, 9, 10- ヘキサブロモシクロ ドデカン (3194-55-6)		3-2254 (K-1035)	標準(4W) 1990年実施 BOD 0, 0, 4 (1) ピーク A HPLC 11, 0, 4 (5) ピーク B HPLC 10, 4, 4 (6) ・各ピークについて(HPLCによる) 分解度試験 濃縮度試験 ピーク A 成分A, B, C ピーク B 成分D, E	難分解性 (1990)	混合物のため 測定不可	>250*3 (48hr)	1990年実施 1回目(成分 B) 1区(120µg/L) : 146 ~ 453 2区(12µg/L) : 1370~3580 (成分 E) 1区(722 µg/L) : 23 ~ 85 2区(72.2µg/L) : 195 ~ 453 脂質含有率 3.8% 1995年実施 2回目(成分 B) 1区(24 µg/L) : 834~ 3070 2区(2.4µg/L) : 3390~16100 (成分 C) 1区(20.2µg/L) : 816~1780 2区(2.02µg/L) : 3350~8950 (成分 E) 1区(144 µg/L) : 118~ 418 2区(14.4µg/L) : 479~2030 脂質含有率 3.9% 3区(2µg/L) : 1760~3280 脂質含有率 3.5%	中濃縮性 (1992) 高濃縮性 (2001)

*1 分解度の平均値が負の値に算出されたため、0と表記した。

*2 Kowwin v 1.66 による計算値

*3 入手試料として

整理番号 K-1754 (NEDO 325, 2-0061)	分解度試験	分解度試験	分解度試験
1, 4-ジクロロブタン (110-56-5)	事業対象年度 平成17年度	契約 年 月 日	契約 年 月 日
	試験期間 17.10.14~18.1.5	試験期間 ~	試験期間 ~
	試験装置 標・揮	試験装置 標・揮	試験装置 標・揮
構造式(示性式)・物理化学的性状 $\text{Cl}-\text{CH}_2-\text{CH}_2-\text{CH}_2-\text{CH}_2-\text{Cl}$	試験濃度	試験濃度	試験濃度
	被験物質 100 mg/L	被験物質 mg/L	被験物質 mg/L
	汚泥 30 mg/L	汚泥 mg/L	汚泥 mg/L
	本試験期間 4 週間	本試験期間 週間	本試験期間 週間
分子式 $\text{C}_4\text{H}_8\text{Cl}_2$ 分子量 127.01	試験結果 間接 BOD 7, 12, 3 (7)%	試験結果 間接	試験結果 間接
	試験結果 直接 GC -1, 0, -1 (0)%	試験結果 直接	試験結果 直接
純度*1 99.9%(毛管カラム GC)	外観 無色澄明の液体		
不純物(物質名, 含有率) 水分 0.03% 酸(HClとして) 0.01%以下 残り 0.07%については不明	溶解度(対水, その他) 対水*2 1.53×10^4 mg/L 酢酸エチル 10 g/L 以上	審査部会 第56回 18年 7月 21日開催	審査部会 第 回 年 月 日開催
融点*2 -37.3°C		判定 難分解性	判定
沸点*2 161°C	1-オクタノール/水分分配係数 $\log \text{Pow} = 2.5$ (HPLC法)*3	備考	備考
密度*1 1.142 g/mL(20°C)	解離定数 解離基なし	1. 回収率 (水+被験物質)系 91.4% (汚泥+被験物質)系 92.7%	3. 特記事項 ・(水+被験物質)系における 被験物質保持率 100%
LD50		2. 実施機関 ・財団法人 化学物質評価研究機構	・分解度の平均値が負の値に算出されたため、0と表記した。
IRチャートの有無 (有)・無			・揮発性が高いため、TOC分析は実施しなかった。
用途			
生産量 (年)			
試料 購入先 和光純薬工業 和光特級			
経済産業公報発表年月日 年 月 日			

*1 和光純薬工業添付資料による。 *2 The Physical Properties Database (Jan. 2000) (Syracuse Research Corporation)による。

*3 溶離液：アセトニトリル/精製水 (1/1 V/V)

濃縮度試験					事業対象年度 平成18年度					濃縮度試験									
試験期間					18. 8. 14 ~ 18. 9. 25					試験期間					~				
試験装置 標・揮		LC50 値			mg/L(hr)魚種()			試験装置 標・揮		LC50 値			mg/L(hr)魚種()						
水槽設定濃度 ()										水槽設定濃度 ()									
被験物質		分散剤			被験物質		分散剤												
第1濃度区					第1濃度区					第1濃度区									
第2濃度区					第2濃度区					第2濃度区									
第3濃度区					第3濃度区					第3濃度区									
濃縮倍率		脂質含有率			開始前			% 魚種()		濃縮倍率		脂質含有率			開始前			% 魚種()	
		終了後										終了後							
		日後			日後			日後		日後		日後			日後			日後	
第1	水槽濃度 ()																		
	倍率																		
第2	水槽濃度 ()																		
	倍率																		
第3	水槽濃度 ()																		
	倍率																		
審査部会 第66回 19年 7月 27日 開催										審査部会 第 回 年 月 日 開催									
判定結果										判定結果									
備考										備考									
分配係数から類推																			
[実施機関] 財団法人 化学物質評価研究機構																			

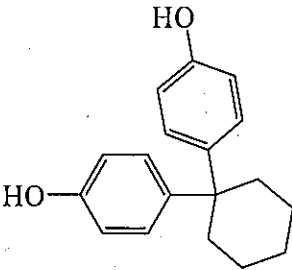
毒性試験	
依	年月日
類	

経過

K-1754の類似物質表

化合物名 (CAS番号)	構造式	官報公示 整理番号 (K-番号)	分解度 (%)	分解 判定 (年)	分配係数 (log Pow)	LC50 mg/L (ヒメダカ)	濃縮倍率	濃縮 判定 (年)
ジクロロプロパン (78-87-5)	$\begin{array}{c} \text{CH}_3-\text{CH}-\text{CH}_2-\text{Cl} \\ \\ \text{Cl} \end{array}$	2-0081 (K-19)	標準(2W) 1974年実施 BOD 0, 0 (0) TOC 0, 6 (3) G C 0, 0 (0)	保留	/	104 (48hr)	1979年実施 1区(0.4 mg/L) : 1.2~3.2 2区(0.04mg/L) : 0.5~6.9 脂質含有率 —	高濃縮性 ではない (1978)
			標準(2W) 1977年実施 BOD 0, 0 (0) TOC 3, 0 (2) G C 4, 0 (2)	難分解性 (1978)				
1-クロロブタン (109-69-3)	$\text{CH}_3-\text{CH}_2-\text{CH}_2-\text{CH}_2-\text{Cl}$	2-0060 (K-1007)	Closed bottle法(4W) (5.21mg/L) 1991年実施 BOD 0 G C 0	難分解性 (1991)	1991年実施 2.82 (フラスコ振とう法)	79.9 (48hr)	1991年実施 1区(0.5 mg/L) : 7.6~21 2区(0.05mg/L) : 11~17 脂質含有率 3.7%	高濃縮性 ではない (1991)
1,4-ジクロロ ブタン (110-56-5)	$\text{Cl}-\text{CH}_2-\text{CH}_2-\text{CH}_2-\text{CH}_2-\text{Cl}$	2-0061 (K-1754)	標準(4W) 2006年実施 BOD 7, 12, 3 (7) G C -1, 0, -1 (0)*	難分解性 (2006)	2006年実施 2.5 (HPLC法)	/	分配係数から類推	

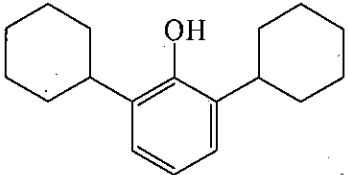
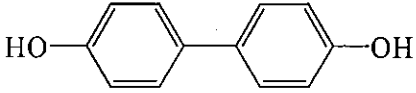
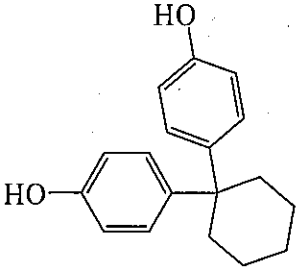
* 分解度の平均値が負の値に算出されたため、0と表記した。

整理番号 K-1755 (NEDO 330, 4-0044)	分解度試験	分解度試験	分解度試験
1,1-ビス(4-ヒドロキシフェニル)-シクロヘキサン	事業対象年度 平成17年度	契約年月日	契約年月日
(843-55-0)	試験期間 17. 7.20~17.10. 3	試験期間	試験期間
	試験装置 ㊟・揮	試験装置 標・揮	試験装置 標・揮
構造式(示性式)・物理化学的性状  分子式 C ₁₈ H ₂₀ O ₂ 分子量 268.35	試験濃度	試験濃度	試験濃度
	被験物質 100 mg/L	被験物質 mg/L	被験物質 mg/L
	汚泥 30 mg/L	汚泥 mg/L	汚泥 mg/L
	本試験期間 4週間	本試験期間 週間	本試験期間 週間
	試験結果 間接 BOD -1, 0, -2 (0%)	試験結果 間接	試験結果 間接
	試験結果 直接 HPLC 1, 1, 3 (2%)	試験結果 直接	試験結果 直接
純度*1 99.9%	外観 白色粉末		
不純物*1 (物質名, 含有率) 残り 0.1%は不明	溶解度(対水, その他) 対水 5.61mg/L (25°C) (フラスコ法) 対メタノール 10g/L以上 対酢酸エチル 10g/L以上	審査部会 第56回 18年 7月21日開催	審査部会 第 回 年 月 日開催
融点*2 190~192°C		判定 難分解性	判定
沸点 289.6°C (大気圧)	1-オクタノール/水分配係数 log Kow = 5.00*4	備考	備考
比重*3 1.23~1.27		1. 回収率 (水+被験物質)系 96.7% (汚泥+被験物質)系 98.5%	
LD50	安定性	2. 実施機関 ・財団法人 化学物質評価研究機構	
IRチャートの有無 (有)・無		3. 特記事項 ・分解度の平均値が負の値に算出されたため、0と表記した。	
用途*5 樹脂用老化防止剤(天然ゴム、ジエン系合成ゴム用)			
生産量 (年)			
試料 購入先 Aldrich Chemical			
経済産業公報発表年月日	年 月 日		

*1 Aldrich Chemical 添付資料による。 *2 Sigma-Aldrich Material Safety Data Sheets(20004/10)による。 *3 有機化合物辞典(講談社)による。
*4 Kowwin v 1.67 による計算値。 *5 14705の化学商品(化学工業日報社)による。

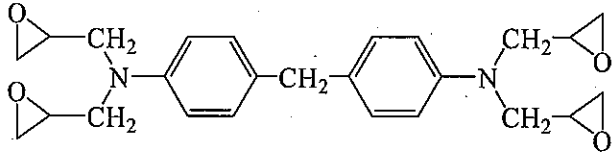
濃縮度試験							濃縮度試験							毒性試験		
事業対象年度 平成18年度														年月日		
試験期間 18.10.16 ~ 19. 2. 9							試験期間 ~							依頼		
試験装置 (標・揮) LC50値 2.1mg/L(96hr)魚種(ヒメダカ)							試験装置 標・揮 LC50値 mg/L(hr)魚種()									
水槽設定濃度 (mg/L)							水槽設定濃度 ()							経過		
被験物質		分散剤					被験物質		分散剤							
		2-メトキシ エタノール														
第1濃度区	0.01	25				第1濃度区										
第2濃度区	0.001	25				第2濃度区										
第3濃度区						第3濃度区										
濃縮倍率 脂質含有率 開始前 5.4% 終了後 5.1% 魚種(コイ)							濃縮倍率 脂質含有率 開始前 % 終了後 % 魚種()									
		3日後	7日後	14日後	20日後	28日後			日後	日後	日後	日後	日後	日後		
第1	水槽濃度 (mg/L)	0.0108	0.0108	0.0110	0.0109	0.0109	第1	水槽濃度 ()								
	倍率	39	24	24	31	37		倍率								
第2	水槽濃度 (mg/L)	0.00107	0.00107	0.00108	0.00107	0.00107	第2	水槽濃度 ()								
	倍率	32	34	<36	<38	<32		倍率								
第3	水槽濃度 ()						第3	水槽濃度 ()								
	倍率							倍率								
審査部会 第66回 19年 7月 27日 開催							審査部会 第 回 年 月 日 開催									
判定結果							判定結果									
備考 [定常状態における濃縮倍率] 第1濃度区 29倍 [ばく露期間における濃縮倍率] 第2濃度区 <32~42倍 [回収率] [定量下限濃度] 試験水 89.6% 試験水 第1濃度区 0.0005 mg/L 第2濃度区 0.00005mg/L 供試魚 87.0% 供試魚 0.033 μg/g [実施機関] 株式会社 三菱化学安全科学研究所							備考									

K-1755の類似物質表

化合物名 (CAS番号)	構造式	官報公示 整理番号 (K-番号)	分解度 (%)	分解 判定 (年)	分配係数 (log Pow)	LC50 mg/L (ヒメダカ)	濃縮倍率	濃縮 判定 (年)
2,6-ジシクロヘキシルフェノール (4821-19-6)		4-0042 (K-482)	標準(4W) 1980年実施 BOD 0, 0, 0 (0) HPLC 1, 2, 5 (3)	難分解性 (1980)	1981年実施 >6.19 (HPLC法)	6.5 (48hr)	1981年実施 1区(150µg/L) : 926~5960 2区(15µg/L) : 167~1620 脂質含有率 4.8% 1981年実施 1区(15 µg/L) : 919~3140 2区(1.5µg/L) : 384~1170 脂質含有率 5.1%	中濃縮性 (1982)
4,4'-ジヒドロキシ ビフェニル (92-88-6)		4-0820 (K-1509)	標準(4W) 2000年実施 BOD 0, 0, 0 (0) HPLC 0, 0, 0 (0)	難分解性 (2000)	2003年実施 2.75	15.8 (96hr)	2001年実施 定常状態における濃縮倍率 1区(20µg/L) : 16 2区(2µg/L) : 26 脂質含有率 開始前 1.61% 終了後 2.28%	高濃縮性 ではない (2001)
1,1-ビス(4-ヒドロキシフェニル)- シクロヘキサン (843-55-0)		4-0044 (K-1755)	標準(4W) 2005年実施 BOD -1, 0, -2 (0)*1 HPLC 1, 1, 3 (2)	難分解性 (2006)	5.00*2	2.1 (96hr)	2006年実施 定常状態における濃縮倍率 1区(0.01 mg/L) : 29 ばく露期間における濃縮倍率 2区(0.001mg/L) : <32~42 脂質含有率 開始前 5.4% 終了後 5.1%	

*1 分解度の平均値が負の値に算出されたため、0と表記した。

*2 Kowwin v 1.67 による計算値。

整理番号 K-1757 (NEDO 331, 4-0112)	分解度試験	3. 特記事項 ・ 試料の純度が低いため、TOD は組成式より算出した。 ・ 分解度の平均値が負の値に算出されたため、0 と表記した。 ・ 被験物質は試験液中で一部加水分解し、複数の水溶性変化物（下記参照、HPLC 分析の溶出順に A-1, A-2, A-3, B-1, B-2, C-1, C-2, C-3, D-1, D-2 とした）を生成するが、いずれも残留する。また、HPLC クロマトグラム上の保持時間から、いずれの変化物も被験物質より極性が高く、後続試験は被験物質で実施した。
N, N, N', N'-テトラグリシジル-4, 4'-ジアミノジフェニル	事業対象年度 平成 17 年度	
メタン (28768-32-3)	試験期間 17.11. 1~18. 3. 2	
構造式 (示性式) ・ 物理化学的性状	試験装置 (標) ・ 揮	
 <p>分子式 C₂₅H₃₀N₂O₄ 分子量 422.52 組成式 C_{24.7}H_{30.1}N_{2.00}O_{4.11} (元素分析による)</p>	試験濃度	被験物質の変化
	有機物質 100 mg/L 汚泥 30 mg/L	被験物質 log Kow = 2.53*4 保持時間 45.2分*5
本試験期間 4 週間	間接 BOD -8, -10, -10 (0) %	↓ +H ₂ O
試験結果	直接 HPLC 73, 68, 59 (66) %	↓ +H ₂ O
		変化物 D-1, D-2 log Kow = 1.38*4 保持時間 38.3分*5
純度*1 90.5% 外観 淡黄色粘性液体	審査部会 第 56 回 18年 7月 21日開催	or
不純物*1 (物質名, 含有率) 残り 9.5%は不明	溶解度 (対水, その他) 対水 8.72 mg/L (25°C) 対アセトニトリル 10 g/L 以上 対酢酸エチル 10 g/L 以上	変化物 C-1, C-2, C-3 log Kow = -0.19*4 保持時間 33.5分*5
融点 -19.3°C	1-オクタノール/水分分配係数 log Pow = 3.0 (HPLC法)*3	判定 難分解性
沸点 測定不可 (240°C付近で淡褐色に変化)	安定性 水中で加水分解する	備考
密度*2 1.15 g/cm ³ (25°C)	解離定数 pKa ₁ = 2.12 pKa ₂ = 3.10	1. 回収率 (水 + 被験物質) 系 97.2% (汚泥 + 被験物質) 系 97.4%
LD50	用途	2. 実施機関 ・ 財団法人 化学物質評価研究機構
IRチャートの有無 (有) ・ 無		生産量 (年)
試験料 購入先 Aldrich Chemical	経済産業公報発表年月日 年 月 日	変化物 B-1, B-2 log Kow = -1.75*4 保持時間 9.4分*5
		↓ +H ₂ O
		変化物 A-1, A-2, A-3 log Kow = -3.31*4 保持時間 4.2分*5

*1 HPLC による。 *2 Sigma-Aldrich Material Safety Data Sheet による。 *3 溶離液：メタノール/pH7.0 緩衝液 (65/35 V/V)

*4 Kowwin v 1.67 による計算値。 *5 HPLC クロマトグラムの保持時間

濃縮度試験					事業対象年度 平成18年度					濃縮度試験												
試験期間					18. 12. 15 ~ 19. 1. 10					試験期間					~							
試験装置 標・揮		LC50 値			mg/L(hr)魚種()			試験装置 標・揮		LC50 値			mg/L(hr)魚種()									
水槽設定濃度 ()										水槽設定濃度 ()												
被験物質		分散剤			被験物質		分散剤			被験物質		分散剤										
第1濃度区					第1濃度区					第1濃度区												
第2濃度区					第2濃度区					第2濃度区												
第3濃度区					第3濃度区					第3濃度区												
濃縮倍率		脂質含有率			開始前			終了後			濃縮倍率		脂質含有率			開始前			終了後			
		日後			日後			日後			日後		日後			日後			日後			
第1	水槽濃度 ()											水槽濃度 ()										
	倍率											倍率										
第2	水槽濃度 ()											水槽濃度 ()										
	倍率											倍率										
第3	水槽濃度 ()											水槽濃度 ()										
	倍率											倍率										
審査部会 第66回 19年 7月 27日 開催										審査部会 第 回 年 月 日 開催												
判定結果										判定結果												
備考										備考												
分配係数から類推																						
[実施機関] 財団法人 化学物質評価研究機構																						

毒性試験	
依	年月日
頼	

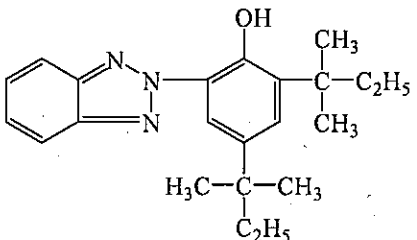
経過

K-1757の類似物質表

化合物名 (CAS番号)	構造式	官報公示 整理番号 (K-番号)	分解度 (%)	分解 判定 (年)	分配係数 (log Pow)	LC50 mg/L (ヒメダカ)	濃縮倍率	濃縮 判定 (年)
<i>N,N</i> -(ジグリシジル)アニリン (2095-06-9)		3-0174 (K-698)	標準(4W) 1985年実施 BOD 0, 8, 1 (3) TOC 2, 4, 1 (2) U V(249nm) 9, 16, 8 (11) (水中で <i>N,N</i> -ビス(2,3-ジ ヒドロキシプロピル)アニリンに 変化する。)	難分解性 (1985)	1.25*3	/	<i>N,N</i> -(ジグリシジル)- オートルイジンから類推	高濃縮性 ではない (1985)
<i>N,N</i> -(ジグリシジル)- <i>o</i> -ートルイジン (40027-50-7)		3-0236 (K-701)	標準(4W) 1984年実施 BOD 2, 3, 2 (2) TOC 2, 5, 1 (3) HPLC*1 8, 11, 9 (9) (水中で加水分解し、 <i>N,N</i> -ビス(2, 3-ジヒドロキシプロピル)- <i>o</i> -トル イジンとなることが確認された。)	難分解性 (1984)	1.80*3	/	変化物である <i>N,N</i> -ビス(2, 3-ジヒドロキシプロピル)- <i>o</i> -トルイ ジンから類推	高濃縮性 ではない (1985)
<i>N,N</i> -ビス(2,3- ジヒドロキシプロピ ル)- <i>o</i> -ートルイジン		3-0233 (K-701 変化物)	/	/	1985年実施 0.14 (プラスコ 振とう法)	>500 (48hr)	1985年実施 ピーク A 1区(1 mg/L) : <0.7~1.0 2区(0.1mg/L) : <7.2~33 ピーク B 1区(1 mg/L) : <0.2~0.4 2区(0.1mg/L) : <1.9 脂質含有率 4.0%	高濃縮性 ではない (1985)
<i>N,N,N',N'</i> -テトラ グリシジル-4,4'- ジアミノジフェニル メタン (28768-32-3)		4-0112 (K-1757)	標準(4W) 2005年実施 BOD -8, -10, -10 (0)*2 HPLC 73, 68, 59 (66) (水中で加水分解し、エポキシ環が 開環した。)	難分解性 (2006)	2006年実施 3.0*4 (HPLC法)	/	分配係数から類推	

*1 加水分解生成物としての分解度。 *2 分解度の平均値が負の値に算出されたため、0と表記した。 *3 Kowwin v 1.67 による計算値。

*4 溶離液 : メタノール/pH7.0 緩衝液 (65/35 V/V)

整理番号 K-1766 (NEDO 340, 5-3604)	分解度試験	分解度試験	分解度試験
2-(2H-ベンゾトリアゾール-2-イル)-4,6-ジ-tert-ペンチルフェノール (25973-55-1)	事業対象年度	契約年月日	契約年月日
	試験期間	試験期間	試験期間
	試験装置	試験装置 標・揮	試験装置 標・揮
構造式 (示性式) ・物理化学的性状  分子式 C ₂₂ H ₂₉ N ₃ O 分子量 351.49	試験濃度	試験濃度	試験濃度
	被験物質 mg/L	被験物質 mg/L	被験物質 mg/L
	汚泥 mg/L	汚泥 mg/L	汚泥 mg/L
	本試験期間 週間	本試験期間 週間	本試験期間 週間
	試験結果 間接	試験結果 間接	試験結果 間接
試験結果 直接	試験結果 直接	試験結果 直接	
純度*1 99.8% (HPLC)	外観 淡黄色粉末		
不純物*1 (物質名, 含有率) 残り 0.2%は不明	溶解度 (対水, その他) 対水 0.0163μg/L (25°C) (カラム溶出法) 対N,N-ジメチルホルムアミド 10g/L以上 対クロロホルム 10g/L以上 対テトラヒドロフラン 10g/L以上	審査部会 第49回 17年11月18日開催	審査部会 第 回 年 月 日開催
融点*2 77~79°C	1-オクタノール/水分配係数 log Kow = 7.25*3	判定 難分解性	判定
沸点	安定性 IRチャートの有無 (有)・無 用途 生産量 (年) 試料 購入先 和光純薬工業 和光一級 経済産業公報発表年月日 年 月 日	備考 分解度試験及び物理化学性状のデータの一部については、企業提供データのため、非公開。	
密度 1.180 g/cm ³ (20°C)			
LD50			
IRチャートの有無 (有)・無			
用途			
生産量 (年)			
試料 購入先 和光純薬工業 和光一級			
経済産業公報発表年月日 年 月 日			

*1 和光純薬工業添付資料による。 *2 Seino, Shuichi; US 4835284 A 1989 CAPLUSによる。
*3 Kowwin v 1.67 による計算値。

濃縮度試験 事業対象年度 平成17年度					濃縮度試験 事業対象年度 平成17年度							
試験期間					試験期間 17. 12. 5 ~ 18. 4. 19							
試験装置 標・揮 LC50値					試験装置 (標)・揮 LC50値 >5.00 mg/L(96hr)魚種(ヒメダカ)							
水槽設定濃度 (μg/L)					水槽設定濃度 (μg/L)							
	被験物質	分散剤				被験物質	分散剤					
		HCO-40					HCO-40	N,N-ジメチルホルムア				
第1濃度区					第3濃度区	0.01	0.01	20000				
第2濃度区												
第3濃度区												
濃縮倍率 脂質含有率 % 魚種()					濃縮倍率 脂質含有率 開始前 2.38% 終了後 4.14% 魚種(コイ)							
		2週	4週	6週	8週		13日後	26日後	40日後	50日後	60日後	
第1	水槽濃度 (μg/L)					第3	水槽濃度 (μg/L)	0.00936	0.00962	0.00963	0.00907	0.00874
	倍率						倍率	1400	1400	2600	2000	2700
第2	水槽濃度 (μg/L)											
	倍率											
第3	水槽濃度 ()											
	倍率											
審査部会 第49回 17年 11月 18日 開催					審査部会 第66回 19年 7月 27日 開催							
判定結果 保留					判定結果							
備考 本濃縮度試験のデータについては、企業提供データのため非公開					備考 [定常状態における濃縮倍率] 第3濃度区 2400倍 [回収率] [定量下限濃度] 試験水 98.1% 試験水 第3濃度区 0.00081 μg/L 供試魚 84.5% 供試魚 4.5 ng/g [実施機関] 財団法人 化学物質評価研究機構							

備考

部位別試験 (濃縮倍率)

第1濃度区
 外皮
 頭部
 内臓
 可食部
 第2濃度区
 外皮
 頭部
 内臓
 可食部
 第3濃度区
 外皮 2300, 3100
 頭部 3700, 5800
 内臓 14000, 15000
 可食部 1600, 1800

排泄試験 (半減期)

第1濃度区
 第2濃度区
 第3濃度区 27日

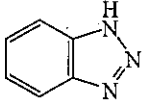
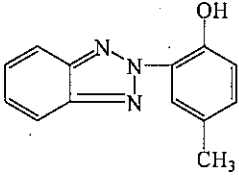
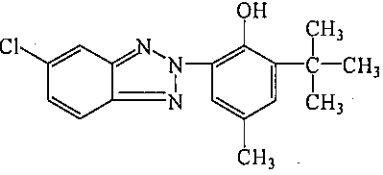
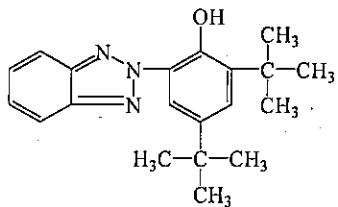
脂質含有率 (%)

第3濃度区
 13日後 2.93, 2.78
 26日後 3.09, 2.83
 40日後 3.99, 3.08
 50日後 3.48, 3.34
 60日後 3.52, 2.93

毒性試験

依 頼	年月日

経過

化合物名 (CAS番号)	構造式	官報公示 整理番号 (K-番号)	分解度 (%)	分解 判定 (年)	分配係数 (log Pow)	LC50 mg/L (ヒメダカ)	濃縮倍率	濃縮 判定 (年)
1, 2, 3-ベンゾトリアゾール (95-14-7)		5-0537 (K-1340)	標準(4W) 1996年実施 BOD 2, 0, 3 (2) TOC 0, 2, 2 (1) HPLC 1, 0, 0 (0)	難分解性 (1996)	1997年実施 不適切な程度 に解離 [フラスコ振 とう法によ る参考値 1.40]	291 (48hr)	1997年実施 1区(1 mg/L) : 1.1~3.0 2区(0.1mg/L) : <4.8~15 脂質含有率 4.5%	高濃縮性 ではない (1997)
2-(2'-ヒドロキシ-5'- メチルフェニル)ベンゾトリアゾール (2440-22-4)		5-0544 (K-1341)	標準(4W) 1996年実施 BOD 0, 3, 0 (1) HPLC 0, 1, 4 (2)	難分解性 (1996)	1998年実施 4.48	>200 (48hr)	1998年実施 1区(1000µg/L) : 123~494 2区(100µg/L) : 130~295 3区(10µg/L) : 44~220 脂質含有率 第1及び第2濃度区 3.6% 第3濃度区 4.0%	高濃縮性 ではない (1998)
2-(2'-ヒドロキシ- 3'-tert-ブチル-5'- メチルフェニル)-5- クロロベンゾトリアゾール (3896-11-5)		5-0545 (K-1342)	標準(4W) 1996年実施 BOD 0, 0, 0 (0) HPLC 0, 0, 0 (0)	難分解性 (1996)	1998年実施 >5.01	>65.0 (48hr)	1998年実施 1区(500µg/L) : 54~109 2区(50µg/L) : 196~802 3区(5µg/L) : 548~895 脂質含有率 第1及び第2濃度区 3.8% 第3濃度区 3.7%	高濃縮性 ではない (1998)
2-(2'-ヒドロキシ- 3',5'-ジ-tert-ブチ ルフェニル)ベンゾトリア ゾール (3846-71-7)		5-3604 5-3580 (K-1352)	標準(4W) 1996年実施 BOD 1, 0, 0 (0) HPLC 0, 0, 1 (0)	難分解性 (1997)	1998年実施 >5.50	>500 (48hr)	1998年実施 1区(10 µg/L) : 365~ 2250 2区(1 µg/L) : 1380~ 8180 3区(0.1µg/L) : 2960~10000 脂質含有率 第1及び第2濃度区 3.7% 第3濃度区 3.6%	高濃縮性 (1998)

化合物名 (CAS番号)	構造式	官報公示 整理番号 (K-番号)	分解度 (%)	分解 判定 (年)	分配係数 (log Pow)	LC50 mg/L (ヒメダカ)	濃縮倍率	濃縮 判定 (年)
2-(3,5-ジ-tert-ブチル-2-ヒドロキシフェニル)-5-クロロベンゾトリアゾール (3864-99-1)		5-3581 (K-334)	標準(2W) 1977年実施 BOD 0, 0 (0) G C 2, 0 (1)	難分解性 (1977)	6.91*	94 (48hr)	1977年実施 1区(400µg/L) : <0.4~12.2 2区(40µg/L) : <4 ~15.9 脂質含有率 —	高濃縮性 ではない (1978)
						>25.0 (96hr)	2002年実施 定常状態における濃縮倍率 3区(1 µg/L) : 900 4区(0.1µg/L) : 4700 脂質含有率 開始前 3.27% 終了後 4.21%	保留 (2002)
							2003年実施 定常状態における濃縮倍率 4区(0.1 µg/L) : 7600 5区(0.01µg/L) : 6500 脂質含有率 開始前 4.22% 終了後 4.39%	高濃縮性 (2003)
2-(2H-ベンゾトリアゾール-2-イル)-4-(tert-ブチル)-6-(sec-ブチル)フェノール (36437-37-3)		5-3604 (K-1767)	試験結果については、企業 提供データのため非公開	難分解性 (2005)	6.31*		2001年実施(非公開) 1区(1 µg/L) : 2区(0.1µg/L) : 脂質含有率 開始前 終了後	高濃縮性 (2005)
2-(2H-ベンゾトリアゾール-2-イル)-4,6-ジ-tert-ブチルフェノール (25973-55-1)		5-3604 (K-1766)	試験結果については、企業 提供データのため非公開	難分解性 (2005)	7.25*		2000年実施(非公開) 1区(1 µg/L) : 2区(0.1µg/L) : 脂質含有率	保留 (2005)
						>5.00 (96hr)	2006年実施 定常状態における濃縮倍率 3区(0.01µg/L) : 2400 脂質含有率 開始前 2.38% 終了後 4.14%	
							2006年実施 定常状態における濃縮倍率 1区(0.1 µg/L) : 940 ばく露期間における濃縮倍率 1区(0.1 µg/L) : 570~1400 2区(0.01µg/L) : 620~1800 脂質含有率 開始前 3.75% 終了後 4.62%	

* Kowwin v 1.67 による計算値。